

病棟紹介



6階西病棟

6階西病棟は耳鼻いんこう科メインの病棟で、その他に内科・外科・婦人科・放射線科、ときに整形外科や小児科の入院などもあるバラエティに富んだ病棟です。看護師は頼れる優しい白石師長をはじめ、個性的な18人のスタッフがそろっています。

耳鼻いんこう科はパス運用率100%を誇っています。病棟の定数は49床ですが、入退院が激しく満床になることはほとんどありません。病棟はベッドの回転率が早いため常に空床があり、昼夜問わず緊急入院を受け入れているのはご承知の通りです。ここの病棟の利点はほとんどの科をみる機会に恵まれており、勉強になるところです。混合病棟であるため入退院も多い中でもできる限り受け入れられるように



6階東病棟

6階東病棟は内科病棟です。主に肝臓・消化器疾患の内視鏡治療や、ラジオ波治療、肝動注塞栓療法、脳血管疾患、膠原病、糖尿病などさまざまな患者さんが入院されます。

主任診療部長の柴山先生を中心に8名の医師が毎日忙しく病棟と外来、内視鏡室、放射線科を往復し治療をしています。Drクラークが忙しい医師の事務業務をフォローしています。

看護師は師長を含み23名です。ナースエイドと協力し、患者さんの治療が安全に、入院生活が安楽に過ごせるよう努めています。固定チームナースング小集団活動では、転倒転落予防、糖尿病教育、褥瘡予防、退院支援、感染予防、業務改善を目標に掲げ頑張っています。



いこいの広場
のお花たち
ペチュニア
花言葉：
「あなたといると
心がやすまる」

次号は、皮膚科と、5階西病棟、5階東病棟の紹介です！お楽しみに！

ベッド調整を行なっています。また入院患者さんにおいては満足していただけるようなケアを心がけ、助け合って働いています。困っていることは、色んな科のDrが主治医であるため指示受けが大変なことです。それでも多様な疾患の患者さんと多くのDr方と毎日忙しいながらも楽しく仕事に励んでいます。



【病棟一の
元気な看護師さん！】



【6階西病棟スタッフ】



【6階東病棟スタッフ】



【チームワーク抜群です！】

災害訓練を実施

恒例の「災害拠点病院としての総合訓練」を10月23日（土）午前にも実施しました。

当院では、平成8年に災害拠点病院に指定されて以降、毎年1回秋に総合訓練を実施しています。今回の参加者は総勢165名（ボランティア33名含む）でした。

過去の災害訓練は、長崎市近郊での地震や船舶事故などを想定して行いました。そのため、受入患者が当院に搬送されるまである程度の時間があることから、医療資器材の準備など受入体制を整えた状態から訓練を開始してしました。問題点としては、災害拠点病院としてどこにどのような資器材が備蓄されていて、実際に患者を受け入れる体制までどのように準備すればよいのかなど「受け入れ前の基本的な情報を職員に周知できていない点がありました。そこで、今回は、「ながさき出島道路での大規模交通事故（大型観光バスを含む多重衝突事故）」という想定に変更し、例年のトリアージ及び処置訓練に加えて、「日常診



消防局警防課のご協力もいただきました。]



[消防局警防課のご協力もいただきました。]

療中に災害が発生し、医療資器材の準備など、すばやく受け入れ体制を整えること」を新しい目標として設定しました。

具体的には、災害の発生↓県からの要請↓災害対策本部の設置↓各部門の状況報告、DMATの派遣↓日常診療業務を中止、医療資器材等の受入準備↓トリアージ及び処置訓練↓反省会という流れで傷病者受入訓練、院内の情報共有・連携の確認訓練などを行いました。

受入準備は、約20分で完了し、38名の傷病者（ボランティアの方にもお願いしました）の病院入口におけるトリアージ訓練、院内への誘導、治療処置班への引継ぎ、状態の安定化、根本治療が必要な傷病者の割り出しとその治療の優先順位付け、そのために必要な検査・放射線部門や手術部門および病棟との連携、当院で受け入れ困難な患者の転院搬送、受入傷病者の事務における把握などの訓練を行いました。

反省会では、「資器材の保管場所がわからない。」「各現場で資器材が不足。準備不足だった。」



[第1・第2トリアージ ※第2トリアージは消防局の災害テントを借用]

た。」など、今回の目的通りの意見が出ました。今回は看護部や事務など備蓄場所を知っている部門が準備したため、他の部門が「備蓄場所の不明確さや、備蓄内容が適した内容になっているか」など、現状の問題点について考えるいい機会になりました。他にも「軽症緑タグ患者を帰宅させる際、帰宅後の処置などがわかる用紙を配るべき」など、より具体的な改善点が挙げられました。今回の訓練でも災害マニュアルの改善点が見つかり、改訂することが決まりました。

この訓練が少しでも「防ぎえた死」の減少（減災）、当院スタッフの災害医療に対するレベルアップにつながればと願っております。実際、災害発生時には当院のみでの活動はあり得ません。皆様との連携をより一層深く出来ますよう努めてまいります。

副院長 橋口 順康



[院内での救命処置、入院などの情報把握。訓練の中で多くの反省点を見出しました。]

新しく病院紹介の新聞コーナーを開設しました！
 毎号、当院のさまざまなニュースをお知らせします。
 HOT STUFF：“特に優れた人(物)”、“元気者”



当院での

作業療法の関わり



作業療法士
 吉田 幸太郎
 血液型: A型
 好きな芸能人:
 ジュリア・ロバーツ
 趣味: アウトドア
 マリンスポーツ

当 院で作業療法サービスが開始されて
 一年程になります。急性期での作業
 療法についてまだまだ私自身模索中で専門
 性を十分発揮できていない状態ですが、現
 状報告及び今後の関わりについて述べさせ
 てもらいます。

主な対象として整形外科疾患・内科(中枢
 神経疾患など)・外科手術後の廃用症候群な
 どを中心に関わっています。

整形外科の頸椎疾患の方であれば術後
 ベッド上安静の間、頸部にカラーを着用し
 側臥位や時期によりベッド傾斜60度などの
 肢位で食事を取ることになります。介助で
 食べさせることは簡単ですが、廃用予防と
 術後スムーズに食事動作が自立できること
 を目的に、術前に頸椎カラーを着用し、側
 臥位での食事訓練やギャッジベッド肢位で
 の食事訓練等を行なっています。また術後
 には、身体機能だけではなく認知機能の低
 下や認知症の進行などが見られ術後の回復

が予定通りにい
 かないことも
 多々あります。
 作業活動を通し
 て認知・精神活
 動維持また離床
 頻度を増やし認
 知面の廃用予防のため関
 わっています。

内科(中枢神経疾患な
 ど)・外科でも同様に、発症
 後や術後リスク管理のため
 ベッド上での安静を余儀な
 くされます。作業療法の目標であるADL自立
 を考えた場合、更衣・食事など応用動作の獲得
 は座位獲得後での関わりが予想されますが、リ
 スク管理を考慮した上で臥位でのADL獲得を
 行えたらと考えています。理学療法がベッドサ
 イドで身体機能の廃用予防を行うよう、作業療
 法では認知面への廃用予防を行っていくことが
 できたらと考えています。

また、院内NSTにも参加しています。嚥下
 の過程は細かく分けると先行期・準備期・口腔
 期・咽頭期・食道期など各段階があります。先
 行期は食物を認知して口まで運ぶまでの期間を
 言い、特にそこに携わっています。食物をス
 ムーズに摂取するためにはしっかりと食物を認
 知するための姿勢、器から食物を取り口元まで



運びやすい姿
 勢、また嚥下
 しやすいため
 の姿勢が重要
 になってきま
 す。また、RA
 の方のように
 手指などに変
 形がある方は

スプーンなど把持が困難なケース
 があります。改造したスプーンな
 ど自助具等(図)を使用するこ
 とで把持が可能となります。

このように食事をするため
 の環境を整えると、食事量
 が増えたり自力で摂取する
 患者さんもおられます。現
 在のところ先行期以後には
 関わっていませんが嚥下が
 スムーズに行なえるよう間接訓練なども勉強を
 要するところと考えています。

最後に、当院で作業療法が稼動してまだわず
 かの期間でしかありません。まだまだ不十分で
 す。が頑張りますので宜しくお願いします。
 作業療法士(O.T.)

吉田 幸太郎

いこいの広場のお花たち
ガザニア
 花言葉:「身近な愛」



【図:手作りの改造スプーン】

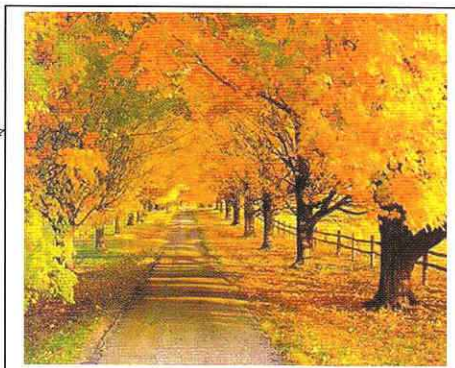


地域医療 連携室便り

紅葉の季節になりました。



旅行には、最適な季節ですね。



地域の医療機関の先生方には大変お世話になっております。

平成22年度も上半期を終え紹介率、救急車搬送数は年々増加しております。

また、相談支援センターの利用者も年々増加し相談者の3割はがん患者さんご家族です。

院内外の患者さん、ご家族に広くご利用いただける相談支援センターでありたいと願っております。

相談は無料ですので（平日の8:15～17:00）、ぜひご案内いただきますようお願い申し上げます。

病床運用状況ならびに業務件数

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度見込
新入院患者数	6,669	6,946	7,101	7,387	7,776	8,081	8,255	7,816	7,843	7,743
新外来患者数	21,951	22,279	21,882	23,421	22,465	20,646	20,340	18,132	17,403	17,512
紹介率	33.7%	37.9%	38.4%	41.9%	42.2%	44.6%	46.0%	49.6%	52.1%	52.6%
病床利用率	866.0%	85.3%	85.7%	89.5%	87.8%	86.5%	88.4%	85.3%	84.5%	84.2%
救急車搬送患者数					1,434人	1,413人	1,422人	1,470人	1,702人	1,882人
地域医療連携室相談患者数								1,624人	1,974人	2,166人
相談件数								12,235件	13,013件	13,780件



市民病院の黄葉
イチョウ
花言葉:
「鎮魂」「長寿」
「しとやか」

※5階のいこいの広場のお花たちは、ボランティアさんのご協力で綺麗に維持されています。



長崎市立市民病院

〒850-8555 長崎市新地町6-39
TEL : 095-822-3251
FAX : 095-826-8798
HP <http://www.nmh.jp/shiby/>



発行・編集
市民病院広報委員会

広報委員長
鈴木 伸

長崎 市民病院

検索

まずはクリック♪